

第2章 総合的な学習の時間

学習指導要領では、探究的な学習の過程を重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものにするものと示されています。その実現に向けて重要な役割を担う総合的な学習の時間では、探究的な学習において、児童生徒が実社会・実生活と接点をもちつつ、多様な人となつながら学ぶことが大切です。

ここでは、地域等、外部との連携体制を構築して実践を進めている3つの取組を紹介します。

1 総合的な学習の時間を通して、小中一貫教育目標を達成する取組

A中学校区（以下A学園とする。）では、これまで「学びを深め、たくましく生きぬく児童生徒の育成」を小中一貫教育の教育目標として、推進部会や教科部会を立ち上げ、具体策を講じながら取り組み、成果を上げてきました。しかし、「地域とともにある学校」づくりに向け、学校と地域が連携・協働した活動を効果的に推進していくことや児童生徒の地域の理解が十分ではなく、その地区のよさを実感できていないことなどが課題となっていました。そこで、これらの課題解決のために、本年度から、A学園の教育目標を「地域の人と地を育む教育の実現」に変更し、総合的な学習の時間を通して、教育目標の達成に向け、推進していくことにしました。

(1) 各小・中学校の総合的な学習の時間の指導計画の見直し

地域の特色を生かした探究学習の推進のため、本年度は、「小中連携した指導計画の整備」を進めることにしました。まず、A学園の各小・中学校が、総合的な学習の時間の年間指導計画を持ち寄り、小・中の系統性や小・小の整合性等の確認を行いました。小中で一貫した指導計画の整備をすることで、地域についての理解を深め、地域に対する愛着心を育てることを目指しています。そこで、指導内容が「地域に愛着がもてる内容なのか」「地域とどのように協働していくのか」という視点で見直すことにしました。

また、最終的には、地域が抱えている問題（少子高齢化、産業の減少等）を取り上げ、探究学習を進め、地域の未来と自分との関わりを考え、地域や学校運営協議会へ発信していきます。

(2) 各学校の具体的な取組

B小学校では、A学園の教育目標の達成のため、地域人材・地域資源を活用した教育活動の充実に努めています。5、6年生の総合的な学習の時間では、テーマを「地域の産業とそれに携わる人の思いや願い」とし、地域の方々から地域活性化についての話を聞きました。

そして、地域のよさを広く発信することが地域活性化につながると考え、動画作成を行いました。動画作成することにより地域を深く知ることができ、改めて地域のよさを実感することができました。さらに人口減少の課題についても目を向け、将来、自分にできることは何かについて考える手立てになりました。このような小学校での学びは、中学校での総合的な学習の時間の学びにつなげていきます。



「地域の方々から学ぶ様子」



「動画制作の様子」

(3) 小中一貫教育合同学習会と学校運営協議会での発信

総合的な学習の時間において、各地域の理解を深め、学習したことを発信できる場として小中一貫教育合同学習会を開催します。ここでは、A学園の小学校6年生と中学校3年生の児童生徒が、中学校に集まり、各校の取組について発表します。また、中学生は、学校運営協議会においても、委員の皆さんに向け、発表を行います。それらの発表を通して、A学園の教育目標である「地域の人と地を育む教育の実現」の達成に向け、地域を担う一員としての自覚をもち、地域への参画意識を高め、地域の皆さんとの協働体制を構築し、「地域とともにある学校づくり」を進めていきます。

2 地域のよさを知り、地域に発信する取組

C小学校の6年生は「地域と共に生きる」をテーマに、児童が地域に出て、地域のよさを再発見し、地域に発信する取組を総合的な学習の時間で行っています。学校運営協議会の熟議や地域の夏祭り、映画祭に、児童が主体的に参加し、地域の一員であるという当事者意識をもって取り組むことで、地域の活性化につながる学習を展開しています。

(1) 社会体験学習

6月に社会体験学習として地域の22か所の事業所で一日仕事を体験する活動を行いました。事業所とのコーディネートは学校運営協議会が担いました。体験した学びについて児童がプレゼンテーション資料を作成し、学校運営協議会で報告しました。また、事業所には、国語科の授業で時候の挨拶や敬語を意識した礼状を書くことで、教科等横断的な学びにもつながりました。



【社会体験学習（保育園）】

(2) 地域の祭りに出店

7月に地域の魅力をより多くの方々に発信するために、夏祭りに出店しました。精肉店やレストラン3店舗に協力を依頼し、それぞれの店の唐揚げを一つの串にした唐揚げ棒を販売しました。また、地域のスポーツ店の協力で児童がデザインしたトートバッグを制作し、販売しました。地域のイベントに寄与することで、児童には地域を盛り上げたいという思いが一層強まりました。



【地域の夏祭りに出店】

(3) 地域の映画祭に制作した動画の出品及び出店

10月に学校周辺の商店などのPR動画「ナスマチック天国」を制作し、地域住民でつくる実行委員会が主催する映画祭で上映しました。6月の社会体験学習で協力いただいた事業所から飲食店や寺院、カフェ、福祉施設など13か所を取材して制作しました。取材の申込みや打合せも児童が自ら行い、レポートのコメントも仲間と協力して考えました。動画は、タブレットを使って撮影し、自分たちの力で編集して映像を制作しました。タブレットを効果的に活用した授業づくりにもつながりました。



【動画制作のレポートの様子】

また、映画祭では、夏祭りでも販売した唐揚げ棒やオリジナルトートバッグに加え、地域の洋菓子店と商品開発をしたクッキー、特別支援学級で作製した藍染めグッズなどを販売しました。



【映画祭での出店の様子】

さらに、地域に出て頑張っている児童の様子を見た映画祭実行委員会の推薦により、映画祭のポスターに起用されました。実行委員の会長は「子どもたちに地域に関心をもってもらえば大人も元気になる。こうした交流を継続して地域活性化につなげていければ。」と児童の今後の活動に期待を寄せていました。児童からも、「地域の役に立てたみたいで嬉しかった。」「地域を取材し発信することで、改めて町のよさを実感できた。」などの感想が聞かれました。



その後の社会科の授業では、6年後には有権者になることを見据えて地域の未来を考える授業を行ったり、自分の考えを作文にして書く活動を継続的に行ったりしています。学年の優秀作品は新聞の読者登壇に投稿し、学んだことを地元だけでなく多くの方に発信し続けています。このように、地域のよさを知り、地域に発信する取組を生かしながら、他教科との関連を図っていくことで、学びの場が広がり様々な相乗効果を生み出しています。



【映画祭PR動画のポスター】

3 中学校区で年計を作成し外部団体や地域と連携してプロジェクトを進めている事例

D中学校区では、「めざす児童・生徒像」を育成するための具体的な取組の一つとして、「総合的な学習の時間」において、探究的な学習の充実を目指しています。令和2年度に、小中一貫教育における教職員組織において、プロジェクトチーム「きずなタイムプロジェクト」を立ち上げました。「地域から未来へ」を校区の統一テーマとし、小学校3年生から中学校3年生までの7年間のカリキュラムを作成しました。小学校では、「ふるさと学習」の視点で学年の活動内容を揃え、中学校では、小学校の「ふるさと学習」での学びを生かし、地域貢献をテーマにした「まちづくり」の視点で創意工夫ある取組を行っています。

<p>各学年の内容</p> <p>〔小学校〕</p> <p>3年生 自分たちが住んでいる地域の施設や産業等を調べる</p> <p>4年生 それぞれの地域の歴史や伝統文化、施設等について調べる</p> <p>5年生 那須塩原市の自然や産業、特色を調べる</p> <p>6年生 まちづくりのプランを考える</p> <p>〔中学校〕</p> <p>1年生 県内の他市町との比較を通してまちづくりを考える</p> <p>2年生 県外の市町との比較を通してまちづくりを考える</p> <p>3年生 「まちづくり提言書」の作成</p>	 <p>【「まちづくりプラン」プレゼンテーション】</p>  <p>【駅周辺整備室による授業】</p>
---	---

(1) 外部団体との連携

小学校では、市長とD中学生が行ったタウンミーティングに6年生がオンラインで参加し、市が考えるまちづくりプランを知った上で、駅前活性化プランのテーマを決定しました。また、市の駅周辺整備室がまとめた「駅周辺まちづくりビジョン」に関わり、「地域プロジェクト演習」を行っている宇都宮大学地域デザイン科学部の学生と共に駅前を散策しました。後日、それぞれの立場で感じたことをオンラインで話し合いました。また、中学校でも、3年生が駅周辺整備室や宇都宮大学の学生と連携し、学生によるオンライン授業を受けたり、市職員と一緒にまちづくりを考えたりしました。最後には、「まちづくり」について自分たちの考えをまとめ、「まちづくり提言書」として市長に提出し、代表生徒が市長室を訪問してプレゼンテーションを行いました。

(2) 地域との連携

「総合的な学習の時間」の時数だけでは、子供たちが考えたアイデアを実践することは難しいため、中学校においては、生徒たちが考えたアイデアを地域学校協働本部の活動として行いました。このことにより、生徒と地域が共に活動することができ、実社会において生徒たちのアイデアが生かされています。

(3) 成果と課題

成果として、地域住民ではない学生との意見交流は、刺激を受けることが多く、多様な見方・考え方を知る機会になりました。また、地域に対する親しみと愛着を深めることができました。自分たちのアイデアを社会に向けて発信したり、実現したりすることで、まちづくりや地域貢献への参画意識の向上にもつながっています。

〔児童の感想〕

- ・調べていく中で、他の地域にはない食べ物や温泉などの魅力を伝えたいと思うようになった。
- ・将来、大学など他の地域に行っても、また戻ってきたいという気持ちになった。
- ・ずっと住み続けて、私たちのまちを30年後、40年後にもっとよいまちにしたい。

なお、地域の状況は、毎年少しずつ変化するため、地域の課題やニーズを把握し、学習内容を修正することが必要になります。そのため、内容の改善・充実を図るために、継続的に内容の検討を行う予定です。



【タウンミーティング（小学校）】



【タウンミーティング（中学校）】



【宇都宮大学の学生との学習会（小学校）】

